

その時、ひとりのドイツ人が
南京を救うために立ち上がった。

ジョン・ラーベ

～南京のシンドラ～

原作:脚本:フロリアン・カレンベルガー 製作:ベンヤミン・ヘルマン ミシャ・ホフマン ヤン・モルト 音楽:アネッテ・フォックス 撮影:ユルゲン・ユルゲス 編集:ハンス・イエルグ・ヴァイシュブリッヒ
2009年・ドイツ・フランス・中国 134分 原題:JOHN RABE デジタル

[illegible]

後援：神戸学生青年センター 協賛：市民社会フォーラム

Deutscher Filmpreis
ドイツ映画賞
4部門受賞
主演男優賞・作品賞
美術賞・衣装賞

Bayerischer Filmpreis
バイエルン映画賞
2部門受賞
最優秀男優賞
最優秀作品賞



ジョン・ラーベ——彼は悪名高きナチス黨員だった。
1937年、日本軍による南京陥落を目前に、
命懸けの人道支援を決断する。

日中戦争が始まって間もない1937年12月。日本軍は中華民国(蔣介石)の首都南京へ侵攻し陥落させた。首都機能はすでに重慶へ移転しており、数十万の市民と中国兵士、そして十数人の欧米人が南京に残留した。残った欧米人たちは、迫りくる日本軍から市民を保護する為、南京安全区国際委員会を設立、その委員長に選ばれたのがシーメンス南京支社長のジョン・ラーベだった——。

本作品は、ラーベと国際委員会メンバーの人道的活動を史実に基に描く。ドイツ映画賞で主演男優賞・作品賞・美術賞・衣装賞を受賞、バイエルン映画賞では最優秀男優賞・最優秀作品賞を受賞した傑作。日本では上映不可能とまで言われた本作品がついに日本初公開!

香川照之、ARATA、柄本明など日本を代表する役者が参加した本作が

日本未公開。 南京事件70周年(2007年)に合わせ、世界中では南京事件に関する映画作品が多く作られました。しかし、日本ではそのほとんどが一般公開されてません。私たち「南京・史実を守る映画祭」実行委員会では、日本で上映されることがなかった「南京事件」映画の上映を敢行してきましたが、今回、5年に渡る交渉の結果、本作品の上映にたどり着くことが出来ました。世界中で認められた映画が上映できない、そんなことはあってはならない。そういう素朴かつ当たり前の思いが、私たちの原点です。



神戸・南京をむすぶ会は、96年4月～5月に神戸市王子ギャラリーで開かれた「丸木位里・俊とニューヨークの画家たちが描いた南京1937絵画展」の実行委員会が中心となって、97年2月27日に結成されました。

毎年中国南京の虐殺事件の現場を訪ね、8月15日に侵華日軍南京大虐殺遇難同胞記念館での犠牲者の追悼式典に参加しています。そして、幸存者(中国では日本軍の被害にあいながらも幸いにも生き残った人々をこう呼んでいます)から、貴重な証言をお聞きしています。

また、南京のほかに年替わりでもう一か所、日本の侵略の跡地を訪ねます。1997年の淮南に始まり、以後、撫順、太原・大同・北京、ハルビン、蘇州・杭州、重慶、大連・旅順、済南・青島、無錫・石家荘・天津、武漢、瀋陽・長春、牡丹江・虎頭・虎林、延辺朝鮮族自治州、海南島、香港、そして昨年は台湾を訪ねました。現地に立ち、犠牲者の苦しみに思いを馳せることにより、不戦の決意を新たにしています。

今年は、8月13日～19日、第18回目の訪中をしました。1937年の日中戦争勃発時、日本軍が上海から南京へと進撃したコースです。政府の方針を無視し戦争を拡大した日本軍は、中国側の頑強な抵抗に苦戦しつつ、補給も不十分なまま道々略奪、暴行をおこない、その結果として首都で世界を震撼させる南京事件を引き起こしました。これらの出来事のあった場所を訪ね、学びました。

来年も8月に訪中します。参加希望者は、表記神戸・南京をむすぶ会にご連絡ください。